

カソリックによる聖書抄訳 ディアスの『聖經直解』

A Partial Translation Based on Catholicism: Diaz's "Shengjing Zhijie"

塩山正純

SHIOYAMA Masazumi

愛知大学国際コミュニケーション学部

Faculty of International Communication, Aichi University

E-mail: shioyama@vega.aichi-u.ac.jp

Abstract

The "Shengjing Zhijie" is a partial bible translation published in 1636 by the Portuguese Jesuit priest Diaz (1574–1659). The "Shengjing Zhijie" is considered to be the original Latin Vulgate bible translation from using text of letters written in Chinese. Among works by the Jesuits this translation is regarded as using very good Chinese. In this paper I shall give a short introduction into the contents and structure of the "Shengjing Zhijie". Then I shall identify text styles on the basis of expressions and filler words (26 letters). As a result of my paper, it becomes evident that the "Shengjing Zhijie" consists almost exclusively of vocabulary containing special expressions. With the Latin Vulgate bible translation of as the original using the filler words with special expressions it becomes clear that it has been very accurately translated.

1.1 ディアスと『聖經直解』の出版

明の時代も末期になると、天主教の各派が中国に宣教師を派遣し、イエズス会、ドミニコ派、フランシスコ派、アウグスティン派、ラザリスト派などの各派が、その布教活動を開始した。その先駆であるイエズス会は1555年から中国における伝道を開始した。そして、布教の当初から、中国において布教に従事する宣教師はまず中国語を習得しなければならないという活動方針を堅持した。例えば『天主実録』の著者であるルッジェーリは2

年余りの短期間に「漢字一萬二千を習得して悉く暗記して居た」と言われる¹⁾。『天主実録』以後、80年間にイエズス会の多くの宣教師によって中国語による著作が170数種出版された。

イエズス会による伝道開始から約80年後、そしてマテオ・リッチが中国語による教理問答書『畸人十規』を出版してから約50年後、1636年に、『聖經直解』がポルトガル人イエズス会士のディアス（1574～1659）によって出版された。

ディアス（Emmanuel Diaz Junior）は中国名が陽瑪諾，字は演西である。1574年ポルトガル生まれで、1593年に修道院に入った。1601年に航路にて出国し、1610年にはゴアに到着、その後マカオに6年滞在し神学を教授した。1611年に韶州に移り布教活動に従事し、1613年には天文学者の身分で北京に滞在した。1614年には（中国）宣教区の巡按使となり、1616年に南京に滞在していたがマカオに流された。1621年には再び北京に滞在し、1623年に中国教区（管区）副区長となって、引き続き1635年まで副区長を務めた。また、この間1626年には南京、1627年には上海、その後杭州に移った。1634年には江西南昌、1638年には福建福州、1639年には寧波に滞在し、その後ふたたび流された。1648年には福建延平に滞在し、1650年から1654年にかけて再び中国教区の副区長を務めたが、1659年杭州にて逝去した。

その訳著は、最も著名な『聖經直解』のほか、『天主聖教十誠直詮』『代疑編』『景教碑詮』『聖若瑟行実』など数多い。とりわけ『聖經直解』は、イエズス会士の数ある著作のなかでもその中国語の評価が高いと言われる。本書は1636年北京にて14巻本が出版され、1642年、1790年に北京で8巻本が出されるなど版を重ねた。また、『聖經浅解』という官話本もある²⁾。

1.2 『聖經直解』の概要

『聖經直解』は前述の通り、ポルトガルのイエズス会士マヌエル・ディアスによる聖書抄訳で全14巻である。本書はキリスト教徒の安息日の聖經（聖書）の事理を説明するものである。さらに、礼拝日と節期（祭礼時）に唱和するために、注釈によって1年間のカソリック教の祭日が詳しく明晰に説明されている³⁾。また、本書は巻末に索引を備えてい

1) 佐伯好郎（1944），p.109参照。

2) 『在華耶蘇会士列伝及書目』、『(同)補編』を参照した。また、方豪（1967～1973）『中国天主教史人物傳』（中華書局，1988版，pp.174-175）によると、『聖經直解』は、1636年、1642年、1790年（いずれも北京）、19世紀初（寧波）、1866年（上海）、民国4年の計6つの版が重ねられた。

3) Garnier (1933), p.10参照。原文は以下の通り。“for the reading on Sundays and feast days.”

る。中国語の書物で索引を持つのは、本書をもってその嚆矢とする⁴⁾。

本書はラテン語ブルガタ訳聖書（4福音書）の中国語への抄訳と、その注釈からなる。カソリックでは、1545年から1563年にかけてのトリエント公会議で公認聖書として認められたラテン語ブルガタ訳聖書を用いている。『聖經直解』について、Garnier (1933) は「本書のあらゆる各段の聖書の翻訳は、当然すべて通俗ラテン語本から訳出されている」と言及しているが、この「通俗ラテン語本」は、ブルガタ訳と考えるのが妥当であろう⁵⁾。『在華耶穌會士列伝及書目補編』には“ディアスは中国語の文言によって主日と聖徒祝日の福音書を翻訳した”と記されており⁶⁾、Garnier (1933) でも「本書は4福音書の多くの経文を、中国語の文言を用いて訳出している」と言われている⁷⁾。つまり、ディアスはブルガタ訳を底本として、聖書を中国語の文言に抄訳したと言えよう。また、ディアスの中国語は、Louis Pfister (非斯忒) が「この『聖經直解』は文章が幽美深奥であるが、一般の教徒が理解できるところのものではない。本書はディアスが中国の最も高深な古文に翻訳しているが、やはり最も理解が難しい。」と述べているように、格調高い文言であった⁸⁾。なお、本書が1933年当時も依然として中国のカソリックで通用していたことをつけ加えておく⁹⁾。

1.3 『聖經直解』の体裁

『聖經直解』は、ブルガタ訳聖書4福音書の中の、カソリック教の年間の安息日（日曜）と1年間の祭日に関わる部分を抄訳している。第1巻から第14巻まで全巻を通して、年間の順序にしたがって排列している。例えば、第1巻はつぎのように、4つの「主日」に関する抄訳と解説によって構成されている。

4) 徐宗澤《明清間耶穌會士譯著提要》p.23の、『聖經直解』に関わる部分の原文は以下の通りである。ここでは1642年に出版された、となっている。“極西耶穌會士陽瑪諾譯，一六四二年出版，有自序，共八卷。是書乃詮解一年中之主日聖經，而加以箴言，一年中瞻禮亦詳解清晰；文理古雅，誠一本好書。此書之特點，允在索引，中文書之有索引者當以此書為嚆矢。”

5) 竹中 (1990), p.39及び、Garnier (1933), p.10参照。後者の原文は以下の通りである。“Doubtless the translation of any section of the Bible found in this work was made from the Vulgate.”

6) 原文は“他用汉文文言翻译了礼拜日和节日的福音书”

7) Garnier (1933), p.10参照。原文は以下の通りである。“This book contains a translation into Wenli of considerable passages from the Four Gospels.”

8) Garnier (1933), p.10での引用を参照。原文は以下の通りである。“These commentaries are written in a style at once pure, elegant and chaste, but beyond the power of ordinary Christians to understand... The translation of the Gospel text was made by Father Diaz in the classical Chinese style, the highest of all, but also the hardest to understand.”

9) Garnier (1933), p.10参照。原文は以下の通りである。“a work which is still in use to-day among Roman Catholics in China.”

ルカ 第21章 25～33節 題「吾主聖誕前第四主日」

マタイ第11章 02～10節 題「吾主聖誕前第三主日」

ヨハネ第01章 19～28節 題「吾主聖誕前第二主日」

ルカ 第03章 01～06節 題「吾主聖誕前第一主日」

このように排列された各巻、各項の中で、安息日と祭日に関する聖經（聖書）の事理を説明する。さらに注釈を加えて、礼拝日と節期（祭礼時）における唱和のために提供されている。

聖書の4福音書全文の章と節の総数はつぎの通りである。

「マタイの福音書」28章 1071節

「マルコの福音書」16章 678節

「ルカの福音書」 24章 1151節

「ヨハネの福音書」21章 878節

合計3778節

ここに挙げた4福音書の章節の総数のうち、『聖經直解』に翻訳されている総節数はそれぞれ以下の通りである。

「マタイの福音書」355節（総節数の33.1%）

「マルコの福音書」 37節（総節数の 5.4%）

「ルカの福音書」 321節（総節数の27.8%）

「ヨハネの福音書」291節（総節数の33.1%）

4福音書から翻訳された節数を合計すると1004節であり、4福音書の総節数の約4分の1（26.5%）の抄訳であることがわかる。『聖經直解』抄訳における4福音書の大体の割合はそれぞれ、「マタイの福音書」が35.3%、「マルコの福音書」が3.7%、「ルカの福音書」が32%、「ヨハネの福音書」が29%である。「マルコの福音書」は、「とくに、イエスの最後の一日の叙述に約六分の一の紙幅を割き、最後の一週間の叙述に約三分の一を割くなど、最後の受難の経緯が中心をなしており、イエスの誕生や幼少時代、家庭環境などには一切触れられていない」ことから¹⁰⁾、極めて少ない部分しか翻訳されていない。

1.4 『聖經直解』の翻訳

ディアスは、トリエント公会議で公認聖書となったラテン語ブルガタ訳聖書の4福音書を底本として中国語に抄訳し『聖經直解』を著している。ここで、「マタイの福音書」8章の数節を例にブルガタ訳ラテン語聖書（以下、表中では【ブ】と表記する。【直】は

10) 『聖書の世界』(2001), pp.199-203参照。

『聖經直解』の本文と比較してみる。

まず「マタイの福音書」8章2節を見てみよう。

【ブ】 *et ecce leprosus veniens adorabat eum, dicens: Domine, si vis, potes me mundare.*¹¹⁾

見よ 癩病人 来る ひれ伏す 彼に 曰く 主よ つもりがある する 私を 浄める

【直】 一癩者伏曰主若肯輒克淨予

ブルガタ訳のうち、“*et ecce* (見よ)” “*eum* (彼に)” “*veniens* (来る)” などが省略されているので、完全な逐語訳とは言えないものの、“*leprosus* = 癩者”, “*adorabat* = 伏”, “*曰* = *dicens*”, “*Domine* = 主”, “*mundare* = 克淨”, “*me* = 予” など、ほぼ原文の意味するところを中国語の文言に忠実に翻訳していることがわかる。

つづいて「マタイの福音書」8章3節を見てみよう。

【ブ】 *Et extendens: Jesus manum, tetigit eum, dicens: Volo. Mundare. Et confestim mundata est*

伸ばす イエス 触る 彼に 曰く 吾欲す 清める 速く 清める

*lepra ejus.*¹²⁾

癩病 その人

【直】 耶穌舒手撫之曰肯淨矣迺厥體遽淨

本節では、ブルガタ訳のうち “*Jesus* = 耶穌”, “*extendens* = 舒手”, “*tetigit* = 撫”, “*eum* = 之”, “*dicens* = 曰”, “*Volo* = 肯”, “*Mundare* = 淨”, “*遽* = *confestim*” などは、ほぼ原文の意味するところが中国語の文言に翻訳されている。“*lepra ejus* (癩病人そのひと)” については、前節までに癩病人がすでに登場しているので、3人称属格の“*厥*”によって、“*厥體* (その身体)” と訳されている。このほか、文末助詞の“*~矣*”と副詞の“*迺*”が補われている。

このように、『聖經直解』では、完全な逐語訳ではないが、ラテン語ブルガタ訳聖書の各節の語句について原典の意味を損なうことなく、助詞、副詞などの虚詞を適宜補いつつ、中国語の文言に翻訳している様子が窺える。

1.5 『聖經直解』の語彙——文言と白話の虚字を中心に——

『聖經直解』の文体は一見したところ文言である。ここで、ヤホントフ (1969) が唐宋時代の文献について、その文体 (文言・混淆体・白話 (口語)) を識別するために鑑定語

11) この節の英語訳 (ブルガタ対訳より) は以下の通りである。“*And behold a leper came and adored him saying, Lord, if thou wilt, thou canst make me clean.*”

12) この節の英語訳 (ブルガタ対訳より) は以下の通りである。“*And Jesus stretching forth his hand, touched him, saying, I will: be thou made clean. And forth with, his leprosy was made clean.*”

として定めた文言から白話の虚字26語と関連する虚詞をキーワードに利用しつつ¹³⁾、その語彙の特徴について見ていきたい。

1.5.1 文言（上古漢語）的要素について (1)

『聖經直解』における、主な文言虚詞の用例数は下表のとおりである。ここでは、ヤホントフ1969の上古漢語の特徴とされるA組の文言虚字の用例と用例数を中心に、関連する語彙も含めて、文言的な語彙の用例の特徴について見て行きたい。

其	之	以	于, 於	也	者	所	矣	則
92	101	88	170	30	220	27	9	30

1) “其”は主格、属格の3人称代名詞、および指示代名詞の役割としての用法である。

- 5-2-96-L23-6 比辣多問其為加理勒亞人否
 5-2-120-M27-30 後唾其面以竹撻其首
 6-14-8-J10-8 他人勿論從何來皆賊惟羊不聽其聲
 8-9-3-M18-25 力莫償王命鬻其身其孥其家資以償
 13-2-4-L1-60 母咈曰若翰其定名

2) “之”は目的格の3人称代名詞、および指示代名詞の役割としての用法である。文末で3人称を表わすものはいずれも“之”で11例あった。

- 1-1-8-L21-32 肆予確說于人類未滅前必僉驗之
 5-2-31-L22-51 耶穌論徒曰休乃輕捫厥耳愈之
 6-14-3-J10-3 司門啟扇納羊聽其聲彼依各羊本名而名之
 7-4-11-L5-11 即拋舟共舍業從之
 8-10-5-M22-19 出視稅錢即出視之

このほか、3人称代名詞、および指示代名詞の属格を表わす“厥”が139例あった。

- 3-1-2-M20-2 定每工一錢令之營厥菊林
 5-2-31-L22-51 耶穌論徒曰休乃輕捫厥耳愈之
 8-7-13-M22-13 王呼左右繫厥手足置之外冥有哭有切齒所
 9-4-11-J1-11 來入厥地厥民猶罔返
 13-2-8-L1-64 厥父口立豁舌立伸興丕讚主恩

また、以下の用例のように、主格とおもわれるような“厥”もある。

- 1-3-9-J1-27 厥來予後厥成實予先予猶罔敢親釋厥綦
 2-1-4-L2-36 亦有亞納先知者法努厄爾暨亞色爾宗枝之女年老厥婚七年

13) ヤホントフ (1969) 『漢語史論集』1986所収「七至十三世紀的漢語書面語和口語」

4-3-9-L11-22 倘有更勇者來而勝必奪厥攸恃兇器必將分厥攸藏財賄

7-4-1-L5-1 維時眾擁逼耶穌望聆聖訓厥止日逆匝肋湖濱

8-7-11-M22-11 王入視賓厥有不著禮服

8-12-13-M24-27 如霹靂東來厥閃達西人子之臨一然

9-2-1-L2-1 維時責撒肋奧吾斯多發令命厥攸屬邦人報名籍上

また“他”の字は14例あるが、いずれも「ほかの、別の」意を表わすもので、白話で一般的な3人称の用例はなかった。

1-2-2-M11-3 往詢曰爾其當來人抑尚望他來

6-2-21-L24-33 時起回京遇十一宗徒偕他門弟

6-14-5-J10-5 若聞他人音不從反皆竄散不習他人聲故

8-7-4-M22-4 次遣他使曰速客云吾宴已備禽牢已宰殺品已全請赴

このほか、3人称を表わすものでは“渠”が14例、“伊”が21例、複数語尾のついた“伊等”が4例あった。

“渠”が14例。

3-3-9-L18-39 前行者止勿喧渠聲愈高曰達未子垂憐我（盲人）

4-4-6-J6-6 斯試彼言渠豫知何處（イエス，“斯”もイエス，“彼”はピリポ）

5-2-50-J18-21 奚為詢予詢問予訓渠知予出辭（私から聞いた人たち）

9-1-4-L1-29 渠聞驚異默思來繇（マリア）

9-4-8-J1-8 渠非光惟光惟光真証（ヨハネ）

“伊”が21例。

2-2-9-L2-50 伊等尚弗達于伊言（イエス）

2-2-10-L2-51 時同伊下返納匝肋德而屬下之維茲眾辭母畜迺心（イエス）

2-3-5-J2-5 聖母語僕曰從伊命可悉行（イエス）

9-10-2-J6-56 領予體飲予血伊懷予予懷伊（“領予體飲予血”の者を指す）

11-3-3-M4-20 伊即應命棄網而從（シモンとアンデレ）

“伊等”が4例。

2-2-1-L2-42 耶穌一紀伊等上日路撒冷如瞻禮規（イエスの両親）

2-2-2-L2-43 禮日既闕伊等行返乃童耶穌自止日路撒冷厥親弗知（イエスの両親）

2-2-9-L2-50 伊等尚弗達于伊言（イエスの両親）

2-7-3-M13-33 別設一喻於伊等曰天國者比發麵之肥婦以藏於麵三斗內麵乃悉動變蓬起（群衆）

3) 介詞としての“以”は88例であった。

1-3-8-J1-26 答曰予惟以水洗人爾等中已居爾等自莫之知

2-6-2-M13-25 役寐時主之籩以莠稗布麥間去

5-2-21-M26-50 耶穌謂之曰友至此為何茹答以禮付人子

5-2-120-M27-30 後唾其面以竹搗其首

5-2-143-L23-33 釘于十字架以賊左右耶穌

- 4) “于”と“於”のほとんどは、「動詞＋“于，於”＋場所」の形をとり、目的語がある場合はこれを動詞との間にはさむ。

“于” 65例。

2-2-11-L2-52 耶穌寢加上知漸增厥齡日益受寵愛于天主及眾人之前

2-4-6-M8-6 主予一僕臥于家病痿苦劇

4-4-15-J6-15 耶穌知眾欲強為王獨身急步再登于山

5-2-143-L23-33 釘于十字架以賊左右耶穌

8-2-7-M6-30 野草今日暫留翌朝付于窠天主猶勒厥衣乃弗愈勒于爾劣信者

12-1-4-J21-22 日尚欲留之于世待予復來于汝何與汝第從予

“於” 105例。

1-3-10-J1-28 前事悉行於白大倪亞若爾當河之後是即若翰授洗於人處

5-2-49-J18-20 耶穌答曰予明講於世予時恆示人於聖殿眾集之所私地無出片言

5-2-85-L23-2 次日是煽惑本國人心又禁納稅於責撒肋又自稱國王

6-5-12-J20-30 斯外猶有多異耶穌行於徒前不錄於斯冊

7-9-7-L19-47 厥後主日日誨眾於殿

8-10-1-M22-15 維時法利色義會議陷耶穌於言失

8-10-3-M22-17 請示納稅於責匝勒可否

この「於」の105例のうち、「形容詞＋“於”」の形で比較を表わすものが3例あり、全体でも比較を表すものはこの3例のみである。

11-1-4-M18-4 卑細者若孩則大於天國

5-2-46-M26-62 司教首起立問曰爾被面訐重多於此爾無一言以白

8-2-3-M6-26 視空中羽無勞稼穡無藏廩餼在天汝父養之爾詎弗貴於羽

- 5) “也” 30例。

6-6-3-J10-13 傭人為傭人為於羊罔與走也

9-11-6-J3-6 受生於人人也受生於神神也

12-3-4-L6-15 瑪竇也多默也雅各伯亞爾弗阿也西滿伊名曰責落德也

12-3-5-L6-16 如達雅各伯也付主者茹答也

12-5-6-J15-22 令予弗降弗親論人則人靡辜今也其辜靡有託故也

- 6) “者” 220例。

1-2-4-M11-5 瞽者明聾者聰癩者淨死者活貧者受教福音

2-7-1-M13-31 維時耶穌設喻於眾曰天國者比之芥種人以藝厥田

5-2-53-M26-63 教首者又問曰汝果天主子當明語吾等

13-1-3-M5-3 神貧者乃真福為其已得天上國

14-2-5-J5-29 善者復活以享嘗生惡者復活以受永苦

7) “所” 9 例。

4-2-9-M17-9 下時耶穌命之曰茲所見勿露俟人子復活

5-2-148-J19-22 比辣多曰所書既書

5-2-156-J19-26 耶穌視母併視所愛之徒謂母曰女人彼為爾子

6-2-12-L24-24 又同道友若干迨塚覓屍而不見其所視一一盡符女言

6-4-7-J21-7 時耶穌所愛徒語伯鐸羅曰是主西滿伯鐸羅聞是主披裳下水

8) “矣” は全体で 7 例しかなく、それほど多用されていない。

5-2-17-M26-46 已矣付予者近起偕予出迓

7-7-5-M7-20 然矣爾視人實即識厥人

10-2-6-L1-44 奇矣爾拜一言擊耳胎子若舞若踴甚喜

12-2-8-J14-8 斐理伯曰主允 # 弟視聖父弟願滿矣足矣

12-6-6-M11-30 予軛飴矣予任轡矣

9) 承接を表わす連詞では“則”が 30 例であった。白話で承接を表わす“就”は見られない。

1-1-7-L21-31 爾輩亦然見行茲兆則知天國已近

4-3-10-L11-23 弗合予則逆予弗偕予積則廢失

6-9-2-J16-24 至今爾輩未將予名以求求則受爾樂則滿

9-3-3-L2-17 視之則識聞見皆相應

12-2-7-J14-7 爾得知予則知予父未幾當知焉爾輩已見予父

1.5.2 文言（上古漢語）的要素について (2)

つづいて、B 組の虚詞と関連する語彙を中心に見ていきたい。まず、主な語彙の用例数は下表に示したとおりである。

而	之	何	無	此	乃
53	124	41	70	25	110

1) “而”によって動詞または動詞連語を並列するものが 53 例あった。

4-3-9-L11-22 倘有更勇者來而勝必奪厥攸恃兇器必將分厥攸藏財賄

6-2-22-L24-34 皆言主真復活而現于西滿

7-12-9-L10-31 適有撒責偶下是路視而去

11-3-3-M4-20 伊即應命棄網而從

12-2-13-J14-13爾賴予名而禱聖父子悉允 # 爾禱

12-3-8-L6-19蓋厥德達布于外病者撫而立痊

- 2) “之”は連体修飾の助詞としての用例で、連体修飾を表わすのは全文を通して、この“之”のみである。後述するように、“的”は1例しかなく、また、この用例は後ろに名詞を持って連体修飾を表わすものではなく、“主咸明的（主がすべて明らかにしたことである）”というように、名詞化、強調を表わしており、また、文末に置かれたものである。

5-2-112-Ma15-12爾輩之王當如之何

5-2-139-L23-28耶穌回顧語之曰京都之女勿哭予當哭爾當哭爾子

8-6-6-M9-6爾曹可知人子在世有赦罪之權謂痿者曰起肩榻歸室

9-1-8-L1-33永王雅各伯家永無疆之國

13-1-9-M5-9和睦者乃真福為其將謂天主之子

- 3) “何”は41例の他に、“何～”と“～何”が合わせて17例あるが、“甚麼”は用例がない。この他、疑問副詞としての“曷”が13例あった。

1-3-7-J1-25復問曰爾既匪契利斯督亦匪厄理亞亦匪先知者曷授洗於人

2-2-8-L2-49答曰曷予覓哉弗知一有吾父之事予即可在茲

2-5-4-M8-26日劣信人曷怯乃起命風教海太平

3-1-6-M20-6時幾酉初又出睹立者幾人曰汝曹曷為終日閑立

9-1-9-L1-34瑪利亞應曰我既童身爾言曷行

- 4) “無”が70例で、“沒有”は用例が無かった。

5-2-14-M26-43又起來視三徒時再寐厥目紅瞽無言對

7-6-2-Ma8-2吾憐若眾自從我迄今經三日皆無食

8-7-8-M22-8乃謂使者曰宴已具惟向召輩無幸以享

12-6-2-M11-26父欲如是悉繇于父無測之意

“有”を“無”によって否定しているものが1例あった。

9-1-12-L1-37天主無有莫能行之行

- 5) 近称の指示詞は“此”が25例で、“這”の用例は無かった。

3-1-7-M20-7此日無雇日汝等亦之予荀林乃詔

3-1-16-M20-16此者先為後後為先請者多簡者寡

4-4-9-J6-9茲有小廝攜大麥餅五魚二此些微鳥給此眾

5-2-21-M26-50耶穌謂之曰友至此為何茹答以禮付人子

6-12-3-J14-25此者予已言於爾偕爾居時

- 6) “乃”110例。

2-2-3-L2-44度在群行行及程乃訪求於親族知識

- 5-2-31-L22-51 耶穌諭徒曰休乃輕捫厥耳愈之
 5-2-116-M27-26 比辣多乃命釋把拉把鞭耶穌
 13-1-5-M5-5 泣涕者乃真福為其將受寬慰
 8-1-6-L17-16 伏叩頌恩斯乃匝瑪利大諾人
 3-3-13-L18-43 應命立見乃從乃揚主恩眾亦咸丕揚

1.5.3 文言の文末助詞について

これまでに見たもの以外で、文言の特徴をもつ文末（句末）助詞の用例数については、下表の通りである。

	乎	哉	與	歟	耳	然	焉
用例数	20	14	0	0	1	7	9

“乎”と“哉”，“焉”が主に使用されている。“與”と“歟”はいずれも用例が無かった。この表のほかでは、“已”は1例のみで“夫”や“而已”については用例がなかった。

1) “乎” 20例。

- 6-2-6-L24-18 其一名格勒阿法曰獨爾在京為旅曾不知近日事乎
 7-1-4-L6-39 復a云瞽者導瞽莫偕蹶陷乎
 9-11-9-J3-9 倪閣曰夫俱奚能為乎
 12-2-5-J14-5 多默曰徒概弗識師奚去奚識道乎
 12-4-3-M9-11 司教者竊視謂徒曰汝師同征稅同罪人並席理乎

2) “哉” 14例。

- 2-2-8-L2-49 答曰曷予覓哉弗知一有吾父之事予即可在茲
 2-6-5-M13-28 曰茲工吾讎工哉役曰主欲予遽往擣
 5-2-133-J19-15 眾狂呼曰舉之舉之比辣多曰爾王奚可釘哉曰吾王惟責撒肋
 7-9-2-L19-42 今安度爾日哉今安享爾平哉今烏知攸隱於爾日哉
 8-3-6-L7-16 僉駭愕稱羨天主曰先知大聖降世哉天主顧眷其民哉

3) “焉” 9例。

- 6-2-23-L24-35 乃彼亦述行際之情及若何祈餅時認之焉
 6-3-1-L24-36 維時耶穌歿現立徒中語曰予平安居與爾偕焉
 12-5-5-J15-21 予二三子來日為予必遭多逆但汝逆皆繇于世不知遣予聖父焉
 13-2-10-L1-66 聞者曰斯嬰來日將為誰奇矣斯孩天主親手之工焉
 13-4-3-J12-26 事予者宜從予逝時則居予現攸居在天予父必榮光從予者焉

1.5.4 白話の虚詞について

C組

便	得	個,箇	了	裏,裡	這	底,的	着	只	兒	子
5	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0

この表で言う“兒”と“子”は接尾辞としての用法である。

- 1) まず承接を表わす連詞の“便”が5例あったが、“就”は用例がなかった。

5-2-3-M26-32 予復活後便現爾於加理勒亞

5-2-122-J19-4 比辣多攜耶穌出外謂眾曰我今攜此人欲爾便知我不知其辜

6-1-7-Ma16-7 爾今往告厥徒偕告伯鐸羅曰主前爾迨加理勒亞在彼便得見主若彼先說於爾

7-7-2-M7-16 汝視厥實便識厥蘊誰摘葡萄於荆棘無花果於蒺藜

9-9-4-Ma16-17 信者倚予名便行多奇能驅惡神能談異語

- 2) “了”は1例であった。

5-2-6-M26-35 日使偕師致命了弗背師眾徒說一然

- 3) “的”は文末での用例が1例であった。

6-2-15-L24-27 即從每瑟以至多先知聖人所預發論因解主情乃主咸明的

『聖經直解』は、4福音書の約4分の1を抄訳しており文字数がかなり多いが、このように、白話虚字の鑑定語が合わせて7例しかい。翻訳全体をみると、やはり文言で翻訳されていることが一目瞭然であると言えよう。

1.5.5 口語・書面語の特徴となる語彙の対比を通して

- 1) “甚”“狠”について

副詞の“甚”と“狠”について見てみる。

まず“ ”については形容詞の後ろに置く用法が多かった。

2-7-2-M13-32 是種在萬種間眇甚微甚惟一長越諸蔬成幹樹以棲戾天禽

4-2-4-M17-4 伯鐸羅告耶穌曰主我等在此樂甚倘許我等肯構三居主一每瑟一阨理亞一

6-14-10-J10-10 盜獨來以竊以殺以敗予來以活予羊以牧厚甚

9-6-10-M2-10 見星忻喜異甚

副詞としての用法は以下の通りである。

4-2-6-M17-6 徒聞偃仆甚怖

5-2-98-L23-8 渠以夙聞耶穌奇異諸蹟得見懼甚望吾主當面行異

7-3-5-L15-5 獲之甚喜

“狠”或は“很”は用例が無かった。

2) “無” “沒有” について

存在の否定を表わす“無”と“沒有”については、すでに前節で見たが、結果は“無”が70例で、“沒有”は用例が無かった。

3) “何” “甚麼” について

疑問を表わす“何”と“甚麼”については、前節でみたように、“何”は41例の他に、“何～”と“～何”が合わせて17例あるが、“甚麼”は用例が無かった。この他、文言の疑問副詞としての“曷”が13例あった。

4) “彼” と “那” について

近称を表わす“此”と“這”については、前節ですで見えてきたが、遠称を表わす“彼”は3人称としての用法、指示詞(場所, ヒト)を全て合わせて66例あったが、“那”は用例が無かった。

5) 介詞 “合” “同” “與” “和” “跟” について

“同”と“與”は、いずれも動詞であるか介詞であるか、曖昧なところであるが、後ろにヒトと動詞をもつ用例が、それぞれ“同”と“與”が7例ずつであった。“同”は連詞の用例は無く、“與”は～例であった。“合”“和”“跟”の3者についてはいずれも用例が無かった。

“同”の用例は以下のとおりである。

2-2-10-L2-51 時同伊下返納匪肋德而屬下之維茲眾辭母畜迺心

2-4-11-M8-11 並語爾自東自西有多人來同亞巴浪義撒雅各宴於天國

5-2-1-M26-30 耶穌同厥門徒出往責多亂溪後

5-2-11-M26-40 禱畢還視三徒皆甚憂寐乃謂伯鐸羅曰西滿眠弗克同予寤半晷

5-2-40-J18-15 伯鐸羅及他徒遠跡隨耶穌掌教者熟識是徒因同耶穌得進在掌教之墀

6-3-8-L24-44 餒分與謂予同汝居時已云每瑟及先知聖人指予所記必當一一悉符

12-4-3-M9-11 司教者竊視謂徒曰汝師同征稅同罪人並席理乎

“與”の用例は以下のとおりである。

2-3-4-J2-4 耶穌應曰女者予與汝何與予時尚未至

4-5-10-J8-55 而猶弗知之予知之若云不知必為誕人與爾等同之而懷厥言焉

5-2-54-M26-64 耶穌謂之曰爾言是我又與爾說異日爾目將見人子坐天主右乘雲降來

5-2-135-M27-24 比辣多既設多計盡無益又眾洶洶群噪將水對眾盟手曰斯無辜人之血與我無與爾輩自顧

6-3-1-L24-36 維時耶穌歿現立徒中語曰予平安居與爾偕焉

6-7-2-J16-17 徒中或互謂曰師與我等說未時弗得見予未時復德見予因將詣予父

9-1-3-L1-28 神入室朝日亞物滿被額辣濟亞者主與爾偕焉女中爾為讚美

“與”の用例の中で、2-3-4-J2-4と5-2-135-M27-24については、後ろの“與”は名詞で

「関係」の意味にあたる。

1.5.6 その他、時間に関する語彙について

時間を表す表現では、“晷”のみが使われている¹⁴⁾。

3-1-12-M20-12 斯輩後至工半晷我等負整日重整日烈主例彼於我等同

5-2-11-M26-40 禱畢還視三徒皆甚憂寐乃謂伯鐸羅曰西滿眠弗克同予寤半晷

1.6 小結

以上、「1.5」を通して見てきたように、『聖經直解』の4福音書抄訳部分の本文では、ほとんどが「書面語の特徴となる語彙」で占められている。幾つかの書目でそう指摘されているように、ラテン語ブルガタ訳聖書を底本に、ほぼ文言の文体に忠実に翻訳されていることがわかる。これまで見てきたように、『聖經直解』では、若干の例外があるものの、文言の特徴をもつ虚字が中心に使われている文体であった。人称代名詞については、『四史攷編』以降の文体の変化と併せて、稿を改めて考察したい。

〈補足〉『聖經直解』における新約聖書4福音書からの引用章節一覧

ディアスによる『聖經直解』が、カソリックの公認聖書正典であるラテン語ブルガタ訳聖書の4福音書からの抄訳であることは、本文ですでに触れたとおりである。本補足では、『聖經直解』における各文が、具体的に原典の第何章の何節を翻訳したものであるのかを調査して、一覧にまとめた。新約聖書の4福音書の章節総数と、『聖經直解』抄訳部分の章節数はそれぞれ以下の通りである。

福音書	章	節総数	抄訳節数	翻訳された割合
「マタイの福音書」	28章	1071節	355節	(総節数の33.1%)
「マルコの福音書」	16章	678節	37節	(総節数の5.4%)
「ルカの福音書」	24章	1151節	321節	(総節数の27.8%)
「ヨハネの福音書」	21章	878節	291節	(総節数の33.1%)
合計		3778節	1004節	(総節数の26.5%)

14) 聖書における時間表現の翻訳については塩山(2007)を参照されたい。ここでは用例を挙げるにとどめる。

4福音書から翻訳された節数を合計すると1004節であり、4福音書の総節数の約4分の1(26.5%)の抄訳であることがわかる。『聖經直解』抄訳おける4福音書の大体の割合はそれぞれ、「マタイの福音書」が35.3%、「マルコの福音書」が3.7%、「ルカの福音書」が32%、「ヨハネの福音書」が29%である。なお、本一覧の見方については、以下の凡例に示したとおりである。

〈凡例〉

本表作成にあたって、テキストには『天主教東傳文献三編(四)』を使用した。

- 1) 左端の、第1巻から第14巻までは、『聖經直解』の巻数で、その下の数字は、各巻のなかの文章の順序を示している。
- 2) 「書／巻」は4福音書の、いずれの書のいずれの巻かを示している。例えば冒頭の「ルカの福音書の第21巻」は「ルカ21」と記す。
- 3) 「節」は、3) 4福音書各巻の第何節から第何節であるかを示した。節の一部分だけ訳されているものには、節番号に下線を付した。
- 4) 「題」は、『聖經直解』各本文のタイトルである。
- 5) 「頁」は、テキスト『天主教東傳文献三編(四)』の該当ページである。
- 6) 「通し番号」は第1巻1文の「1」番から第14巻2文の「91」番まで、便宜的に番号を付したものである。

	書／巻	節	題	頁	通し番号
第1巻					
1	ルカ 21	25～33	吾主聖誕前第四主日	1571	1
2	マタイ 11	02～10	吾主聖誕前第三主日	1579	2
3	ヨハネ 01	19～28	吾主聖誕前第二主日	1601	3
4	ルカ 03	01～06	吾主聖誕前第一主日	1620	4
第2巻					
1	ルカ 02	33～40	吾主聖誕後主日	1635	5
2	ルカ 02	42～52	三王來朝後第一主日	1643	6
3	ヨハネ 02	01～11	三王來朝後第二主日	1655	7
4	マタイ 08	01～13	三王來朝後第三主日	1671	8
5	マタイ 08	23～27	三王來朝後第四主日	1683	9
6	マタイ 13	24～30	三王來朝後第五主日	1693	10
7	マタイ 13	31～35	三王來朝後第六主日	1713	11

第3巻

1	マタイ	20	01~16	封齋前第三主日	1727	12
2	ルカ	08	04~15	封齋前第二主日	1759	13
3	ルカ	18	31~43	封齋前第一主日	1787	14

第4巻

1	マタイ	04	01~11	封齋後第一主日	1801	15
2	マタイ	17	01~09	封齋後第二主日	1865	16
3	ルカ	11	14~28	封齋後第三主日	1885	17
4	ヨハネ	06	01~15	封齋後第四主日	1901	18
5	ヨハネ	08	46~59	封齋後第五主日	1913	19

第5巻

1	マタイ	21	01~09	封齋後第六主日	1930	20
(原書はマタイ20と表記)						
2	(マタイ26・27, マルコ14・15, ルカ22・23, ヨハネ18・19を混交)					21
1	マタイ	26	30~50		1939	
2	ヨハネ	18	04~09		1943	
3	マルコ	14	46のみ		1944	
4	ルカ	22	49のみ		〃	
5	ヨハネ	18	10のみ		〃	
6	ルカ	22	51のみ		〃	
7	マタイ	26	52のみ		〃	
(或いはヨハネ18-11のみ)						
8	マタイ	26	53~54		1945	
9	前半	マタイ	26	55のみ	〃	
	後半	ルカ	22	53のみ	〃	
(つながり部分で重複)						
10	マルコ	14	50のみ		〃	
11	ヨハネ	18	13のみ		〃	
12	マタイ	26	57のみ		1946	
(或いはマルコ14-53のみ)						
13	ヨハネ	18	15・16・18		〃	
14	マタイ	26	59~63前半		〃	
(63後半は1948頁の16の第1文)						
15	ヨハネ	18	19~23		1947	

16	マタイ	26	63後半～66	1948
17	マルコ	14	65のみ	1949
18	ヨハネ	18	17のみ	〃
19	マルコ	14	68のみ	〃
20	マタイ	26	71～73	〃
21	ヨハネ	18	26のみ	1950
22	ルカ	22	60～62	〃
23	ルカ	22	66～71	1951
24	ルカ	23	01のみ	〃
25	マタイ	27	03～10	1952
26	ヨハネ	18	29～32	1953
27	ルカ	23	02のみ	1954
28	マタイ	27	12～14	〃
29	ヨハネ	18	33～38	1955
30	ルカ	23	05～16	1956
31	マタイ	27	15～17・20	1958
			(16節の一部にヨハネ18-40が入る)	
32	マルコ	15	12・13	1959
33	ルカ	23	22・23	〃
			(或いはマタイ27-23のみ)	〃
			(或いはマルコ15-14のみ)	〃
34	マタイ	27	26～31	〃
			(或いはマルコ15-15～20)	〃
35	ヨハネ	19	04～15	〃
36	マタイ	27	19のみ	1962
37	マタイ	27	24・25	〃
38	マルコ	15	15・16・20・22部分要約	1963
			(或いはマタイ27-26・27・31・33部分要約)	
39	ルカ	23	27～33	〃
40	マタイ	27	41・42	1964
			(或いはマルコ15-31・32)	
41	ヨハネ	19	19・21・22	〃
42	ルカ	23	34のみ	1965
43	ルカ	23	39～43	〃

44	ヨハネ	19	25～27		1966
45	マタイ	27	45・46		1967
			(或いはマルコ 15-33・34)		
46	ヨハネ	19	28～30		1968
47	ルカ	23	46のみ		〃
48	マタイ	27	51～54		〃
49	ヨハネ	19	31～34		1969

第6巻

1	マルコ	16	01～07	耶穌復活本主日	2046	22
2	ルカ	24	13～35	耶穌復活後第一副瞻禮	2061	23
3	ルカ	24	36・38～47	耶穌復活後第二副瞻禮	2073	24
4	ヨハネ	21	01～14	耶穌復活後第三副瞻禮	2079	25
5	ヨハネ	20	19～31	耶穌復活後第一主日	2087	26
6	ヨハネ	10	11～16	耶穌復活後第二主日	2097	27
7	ヨハネ	16	16～22	耶穌復活後第三主日	2107	28
8	ヨハネ	16	05～14	耶穌復活後第四主日	2113	29
9	ヨハネ	16	23～30	耶穌復活後第五主日	2119	30
10	ヨハネ	15	26・27	耶穌昇天後主日	2125	31
11	ヨハネ	16	01～04	同上	2126	32
12	ヨハネ	14	23～31	耶穌降臨本主日	2133	33
13	ヨハネ	03	16～21	耶穌降臨後第一副主日	2147	34
14	ヨハネ	10	01～10	耶穌降臨後第二副主日	2153	35
15	マタイ	28	18～20	天主三位一體主日經	2165	36

第7巻

1	ルカ	06	36～42	聖神降臨後第一主日	2173	37
2	ルカ	14	16～24	聖神降臨後第二主日	2183	38
3	ルカ	15	01～10	聖神降臨後第三主日	2193	39
4	ルカ	05	01～11	聖神降臨後第四主日	2201	40
5	マタイ	05	20～24	聖神降臨後第五主日	2207	41
6	マルコ	08	01～09	聖神降臨後第六主日	2221	42
7	マタイ	07	15・16・18～21	聖神降臨後第七主日	2227	43
8	ルカ	16	01～09	聖神降臨後第八主日	2229	44
9	ルカ	19	41～47	聖神降臨後第九主日	2247	45
10	ルカ	18	09～14	聖神降臨後第十主日	2251	46

11	マルコ	07	31～37	聖神降臨後第十一主日	2259	47
12	ルカ	10	23～37	聖神降臨後第十二主日	2263	48
第8巻						
1	ルカ	17	11～19	聖神降臨後第十主日	2289	49
2	マタイ	06	24～33	聖神降臨後第十主日	2299	50
3	ルカ	07	11～16	聖神降臨後第十主日	2311	51
4	ルカ	14	01～11	聖神降臨後第十主日	2315	52
5	マタイ	22	34～46	聖神降臨後第十主日	2325	53
6	マタイ	09	01～08	聖神降臨後第十主日	2329	54
7	マタイ	22	01～14	聖神降臨後第十主日	2337	55
8	ヨハネ	04	46～53	聖神降臨後第十主日	2341	56
9	マタイ	18	23～35	聖神降臨後第十主日	2347	57
10	マタイ	22	15～21	聖神降臨後第十主日	2353	58
11	マタイ	09	18～26	聖神降臨後第十主日	2361	59
12	マタイ	24	15～35	聖神降臨後第十主日	2367	60
第9巻						
1	ルカ	01	26～38	吾主耶穌瞻禮～	2381	61
2	ルカ	02	01～14	吾主耶穌聖誕瞻禮	2410	62
3	ルカ	02	15～20	同上	2419	63
4	ヨハネ	01	01～14	同上	2419	64
5	ルカ	02	21のみ	立耶穌聖名瞻禮	2445	65
6	マタイ	02	01～12	三主來朝耶穌瞻禮	2453	66
7	ルカ	02	22～30・32	聖母獻耶穌于主堂瞻禮	2464	67
8	ヨハネ	13	01～15	耶穌建定聖體瞻禮	2475	68
9	マルコ	16	14～20	吾主耶穌昇天瞻禮	2487	69
10	ヨハネ	06	55～58	聖體瞻禮	2499	70
11	ヨハネ	03	01～15	尋得十字聖架瞻禮	2520	71
第10巻						
1	マタイ	01	01～16	聖母瞻禮	2538	72
2	ルカ	01	39～47	聖母往見聖婦依撒伯爾瞻禮	2553	73
3	ルカ	10	38～42	聖母昇天瞻禮	2576	74
第11巻						
1	マタイ	18	01～10	建聖彌額爾大神殿瞻禮	2605	75
2	マタイ	16	13～19	聖伯鐸羅聖葆祿二位宗徒瞻禮	2636	76

(原書はマタイ 11 と表記)

3	マタイ 04	18～22	聖諸徳助宗徒瞻禮	2647	77
4	マタイ 20	20～23	雅各伯宗徒瞻禮	2671	78

第12巻

1	ヨハネ 21	19～24	聖若翰宗徒兼聖史瞻禮	2691	79
2	ヨハネ 14	01～13	聖斐理伯聖雅各伯二位宗徒瞻禮	2707	80
3	ルカ 06	12～19	聖巴爾多祿茂宗徒瞻禮	2723	81

(原書は明記せず、筆者が補足)

4	マタイ 09	09～13	聖馬竇宗徒兼聖史瞻禮	2737	82
5	ヨハネ 15	17～25	聖西滿聖達徒二位宗徒瞻禮	2749	83
6	マタイ 11	25～30	聖瑪弟亞宗徒瞻禮	2763	84

第13巻

1	マタイ 05	01～12	諸聖人之瞻禮	2786	85
2	ルカ 01	57～68	聖若翰保弟斯大誕日之瞻禮	2827	86
3	マタイ 23	34～39	聖斯德望首先致命者瞻禮	2844	87
4	ヨハネ 12	24～26	聖勞楞佐致命之瞻禮	2851	88
5	マタイ 02	13～18	聖諸嬰孩致命者瞻禮	2859	89

(原書は明記せず、筆者が補足)

第14巻

1	マタイ 06	16～21	聖灰禮儀瞻禮～	2871	90
2	ヨハネ 05	25～29	推思聖教先人瞻禮	2884	91

(2884頁と2886頁が重複)

主要参考文献・資料一覧

〈参考文献一覧〉出版年順

日本

- 1944 佐伯好郎『支那基督教の研究3』春秋社松柏館
 1990 竹中憲一「漢訳聖書『聖經直解』『四史攷編』について」『人文論集』29号, 早稲田大学法学会
 2001 川島二郎・土岐健治「初期日本語訳聖書と中国語訳聖書」『聖書の世界総解説』自由国民社
 2007 塩山正純「聖書の中国語訳——時間表現を通してみる異文化翻訳——」『中国21』第28号, 愛知大学現代中国学会

中国

- 1932, 1934 (フランス) 費頼之『在華耶蘇会士列伝及書目(上・下)』中華書局(1995版)
 1949 徐宗澤『明清間耶蘇会士訳著提要』中華書局(1989影印)
 1969 雅洪托夫(ロシア:ヤホントフ)「七至十三世紀の漢語書面語和口語」『漢語史論集』(1986版)北京大学出版社
 1967-1973 方豪『中国天主教史人物傳』(中華書局1988版)

1973 (フランス) 栄振華 『在華耶蘇会士列伝及書目補編 (上・下)』 中華書局 (1995版)

欧文

1933 A.J. Garnier, *Chinese Version of the Bible* (1934 『漢文聖經訳本小史』)

〈聖書その他の資料一覧〉

『聖經直解』(『天主教東傳文獻』台湾学生書局1972)

『羅和辞典』田中秀夫(1966, 1990年24刷)

『聖書』日本聖書刊行会(1977)

『舊新約聖書・文語訳』日本聖書協会(1991)

The Vulgate New Testament, with the Douay Version of 1582 (1872)

The New Greek-English Interlinear New Testament (1990)

THE INTERLINEAR NRSV-NIV PARALLEL NEW TESTAMENT IN GREEK AND ENGLISH, Zondervan Publishing House, Alfred Marshall (1993)

THE BIBLE AUTHORIZED KING JAMES VERSION WITH APOCRYPHA, Oxford university press, R. Carroll, S. Prickett (1997)

